

中心市街地活性化基本計画の取組に関する平成 23 年度最終フォローアップの概況

平成 24 年 9 月
内閣府地域活性化推進室

平成 23 年度末をもって、全国 14 市 14 計画の認定「中心市街地活性化基本計画」が計画期間を満了しました。

今般、この 14 市が中心市街地活性化の取組の進捗・完了状況及び目標達成状況等について、最終フォローアップとして自己評価を実施しました。

I. 中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップについて

(1) 中心市街地の活性化を図るために、市町村が作成し、推進する「中心市街地活性化基本計画」(以下「基本計画」という。)については、「中心市街地活性化新法(平成 18 年施行)」に基づき、第 1 号の認定が行われた平成 19 年 2 月以降、現在までに、計 107 市作成による 118 の基本計画が内閣総理大臣の認定を受けている。

(2) 認定を受けた基本計画については、各市町村自ら、計画期間満了後に、取組(事業等)が予定どおり進捗したのか、市町村としての目標は達成されたか等をフォローアップ(自己評価)することとされている。

これを受けて、今般、平成 23 年度をもって計画期間を満了する 14 市が 14 の基本計画について最終フォローアップを行ったところである。

(3) 基本計画では、一般的には、各市町村が複数の目標を設定し、その達成度合いを評価するための指標(目標指標)を数値により設定している。

今般、最終フォローアップ対象となる 14 市の基本計画では、合計 50 の目標指標が採用されており、計 741 事業をもって当該 50 目標の達成に向けた取組が行われてきた。

今般は、次の例により、各市自らが目標指標ごとにフォローアップを行ったものである。

(参照)「(参考)各目標指標分類の報告内容(平成 23 年度最終フォローアップ)」

(各市フォローアップ例)

【目標】	【目標指標】	【基準値】	【目標値】	【最新値】	達成状況等
		<平成 18 年度>	<平成 23 年度>	<平成 23 年度>	
賑わいあふれる 中心市街地	休日歩行者通行量	5, 000 人	7, 000 人	7, 500 人	A
	小売業年間商品販売額	15, 000 百万円	16, 000 百万円	15, 500 百万円	B
安心して生活し続けられる 中心市街地	居住人口	6, 500 人	7, 000 人	6, 000 人	c

※基準値・・・目標に向けた基準となる計画作成当初値

<取組の進捗・完了状況及び目標達成状況等の分類>

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えている。)

a (計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えている。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えたが、目標値には達していない。)

b (計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えたが、目標値には達していない。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値及び基準値にも達してない。)

c (計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値及び基準値にも達していない。)

(参考) 各市によるフォローアップの内容は、各市及び当室のホームページにて公表。

(地域活性化推進室ホームページ : <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/chukatu/index.html>)

Ⅱ. 最終フォローアップの概況

< 1. 中心市街地の活性化状況と要因分析 >

- (1) 中心市街地の状況につき、「活性化が図られた」とする場合の主な要因としては、例えば、次の事項が挙げられる。
- ・ 魅力あるハード事業（例：高岡古城公園整備事業）及びソフト事業（例：文化遺産群を活用した各種イベント事業）を一体的に促進できた。
 - ・ 地域住民や事業者等と強固に連携し、官民一体の取組体制を構築できた。
 - ・ 新たに把握した課題に対して、その解消に向けた取組みを都度追加するなど、事業環境変化に迅速に対応できた。
- (2) 逆に、「活性化が図られなかった」とする場合の要因としては、例えば、次の事項が挙げられる。
- ・ 景気悪化等により消費が冷え込み、計画事業等が中止等に至った。
 - ・ 事業効果に当初想定したほどの継続性・波及性がなく、一時的・部分的に止まった。
 - ・ 事業効果を上回る想定以上の人口減少（自然減、子育て世代の郊外転出）が生じた。
- (3) なお、中心市街地の活性化による副次効果、波及効果として、「中心市街地の地価の下げ止まり」、「民間投資意欲の活発化」、「中心市街地活性化に関する市民団体、まちづくり団体等の設立の活発化」等が挙げられる。

< 2. 市民意識の変化 >

各市が行ったアンケート結果によれば、計画当初と計画期間満了時点の市民意識を比較したところ、「計画当初より中心市街地の活性化が図られている」「来街頻度が増加した」「中心市街地の魅力が向上した」という回答が得られている。

また、「中心市街地の活性化」を「積極的に取り組むべき分野」と考えている市民が増加している市や、来街手段で徒歩・自転車の割合が大きく増加している市も見受けられる。

一方で、「中心市街地に魅力と賑わいが無い」という回答が80%を占めた市もあった。

< 3. 中心市街地協議会としての意見 >

14市の中心市街地協議会からは、概ね、「市と密に連携しながら官民一体で計画事業を推進し、中心市街地の活性化に大きく寄与できた」、「相当程度の活性化が図られた」という意見が出されている。

一方で、一部、「活性化の効果が限定的であり、中心市街地全体の活性化には至っていない」「市と協議会の間でまちづくりに対する議論がミスマッチを起こしていた（中心核（中心市街地）とその周辺に特色ある生活圈を持った地域核が取り巻く多機能型都市を目指すか、あるいは、中心核に特化したものを目指すか）」との回答もあった。

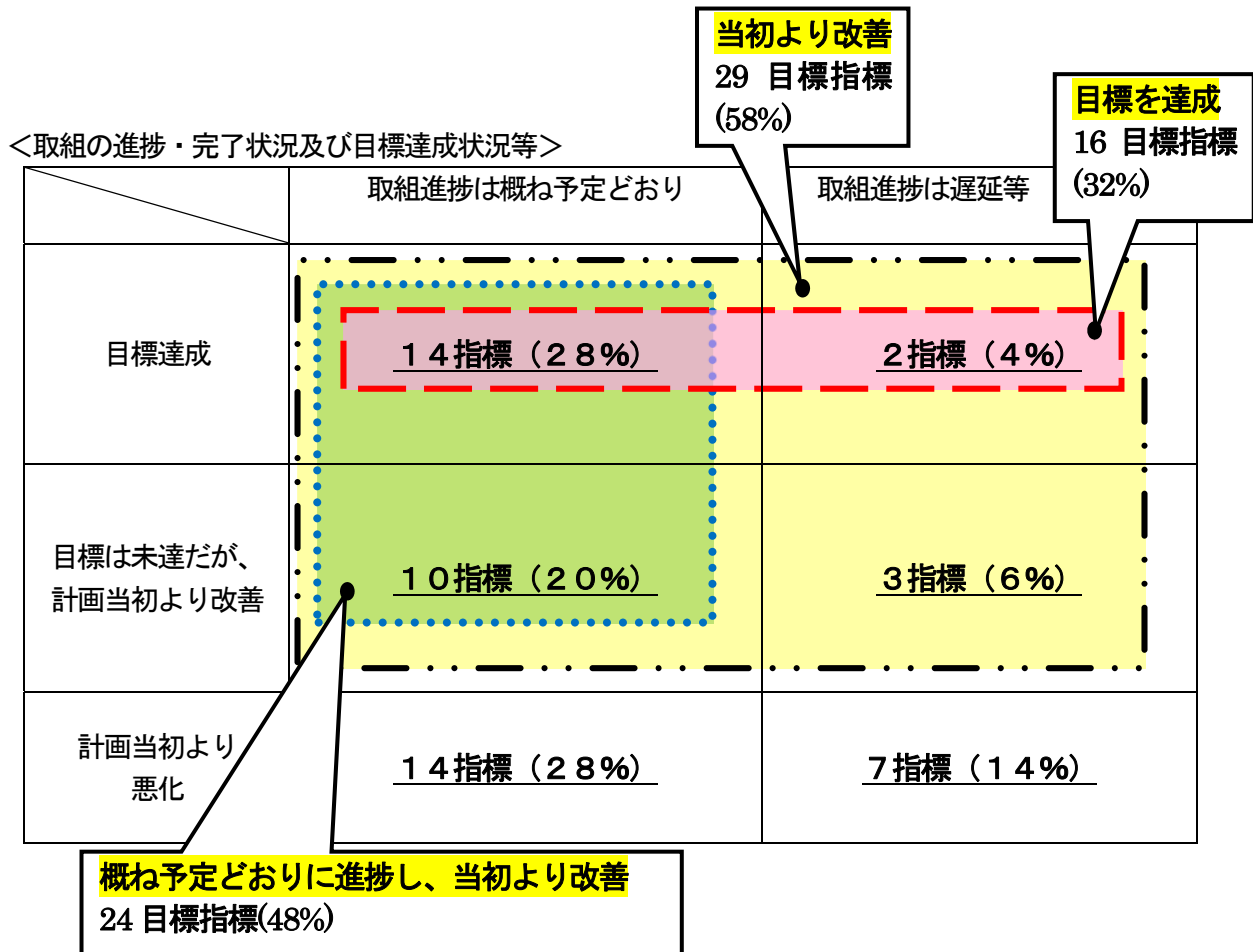
※「中心市街地活性化協議会」・・・中心市街地の活性化の総合的・一体的な推進について協議するため、商工会議所、まちづくり会社等により組織する協議会。中心市街地活性化法第15条。

<4. 各目標指標の概況> (詳細は別紙参照)

(1) 目標指標全体

14市50目標指標のうち、全体として29目標指標(58%)が基本計画の策定時よりも改善している。このうち、16目標指標(32%)が「目標達成」に至っている。

また、「取組が概ね予定どおりに進捗し、当初より数値が改善した」とされている目標指標は24目標指標(48%)である。



(2) 個別の目標指標分類

① 「取組の進捗・完了状況」について

- ・「通行量」、「公共交通機関利用」に関する目標指標で「概ね予定どおり」であるものが比較的多い。
- ・「居住人口等」、「施設入込数等」、「販売額等」、「空き店舗等」に関する目標指標については、「一部予定どおりでない」ものが比較的多い。

② 「目標達成状況」について

- ・「施設入込数等」、「公共交通機関利用」、「空き店舗等」に関する目標指標については、「目標達成」となったものが比較的多い。
- ・「通行量」、「居住人口等」、「販売額等」に関する目標指標については、「目標未達」のものが比較的多い。

③ 「当初の状況(基準値)からの改善状況」について

- ・「施設入込数等」、「公共交通機関利用」に関する目標指標については、「当初より改善」となったものが比較的多い。

- ・「通行量」、「居住人口等」、「販売額等」、「空き店舗等」に関する目標指標については、「当初から改善していない」ものが比較的多い。

<目標指標の分類>

- 【通行量】歩行者、自転車の通行量等
- 【居住人口等】居住人口、年間社会人口動態等
- 【施設入込数等】年間観光施設入込客数、文化施設等の年間利用者数等
- 【販売額等】小売業年間商品販売額、年間売上額等
- 【公共交通機関利用】路面電車乗車人数、鉄道駅乗降客数等
- 【空き店舗等】空き店舗率、空き店舗数等

Ⅲ. 今後について

14市全てにおいて、基本計画の計画期間満了後も中心市街地の活性化に継続して取り組むこととしている。このうち、引き続き第2期目の計画を作成し、認定を受けた市は7市、いったん計画は終了したものの、今後2期認定を目指す予定の市は2市、認定は受けずに市独自で中心市街地活性化に取り組む市は5市、となっている。

<1. 目標指標分類の詳細について>

(1) 目標指標分類別の集計

14市がフォローアップを行った取組の進捗・完了状況及び目標達成等状況について、目標指標を分類別に集計すれば、次のとおりとなっている。

達成状況等	全体	A 通行量	B 居住人口 等	C 施設入込 数等	D 販売額等	E 公共交通 機関利用	F 空き店舗 等	G その他
A	14	2	1	4		2	1	4
<u>a</u>	2			1	1			
B	10	5	2	2		1		
<u>b</u>	3		2					1
C	14	5	3		3	1	1	1
<u>c</u>	7	2	2	1	1		1	
合計	50	14	10	8	5	4	3	6

<目標指標の分類>

- 【A 通行量】 歩行者、自転車の通行量等
- 【B 居住人口等】 居住人口、年間社会人口動態等
- 【C 施設入込数等】 年間観光施設入込客数、文化施設・都市福利施設の年間利用者数等
- 【D 販売額等】 小売業年間商品販売額、年間売上額等
- 【E 公共交通機関利用】 路面電車乗車人数、鉄道駅乗降客数等
- 【F 空き店舗等】 空き店舗率、空き店舗数等
- 【G その他】 就業人口、事業所数等

<取組の進捗・完了状況及び目標達成状況等の分類>

- A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えている。)
- a (計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えている。)
- B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えたが、目標値には達していない。)
- b (計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えたが、目標値には達していない。)
- C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値及び基準値にも達していない。)
- c (計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値及び基準値にも達していない。)

※各目標指標を達成するための主な取組例

目標指標	主な取組
A 通行量	文化交流施設整備、商業施設整備、公共交通整備、駐輪場整備、イベント開催 等
B 居住人口等	居住環境整備 (土地区画整理、マンション建築、商業施設整備等)、家賃補助 等
C 施設入込数等	商業施設とマンション等の複合施設の整備、施設運営の民間委託、観光マップ・ルート整備、イベント開催 等
D 販売額等	商業施設整備、駐車場整備、歩行空間整備、イベント開催、新規出店・起業支援 等
E 公共交通機関利用	交通体系の整備 (ダイヤ・ルート)、公共交通機関周辺への集客施設の整備、IC カード等の活用 等
F 空き店舗等	テナントミックス、再開発、空き店舗情報の公開、新規出店支援 等

(2) 目標指標ごとの取組進捗・完了状況

14市50目標指標について、取組の進捗・完了状況を集計した結果は、次のとおりとなっている。

【取組の進捗・完了状況】

予定どおり進捗・完了したもの^(注1)が比較的多い取組指標^(注2)は、公共交通機関利用、通行量に関するものとなっている。

逆に、予定どおり進捗・完了しなかったもの^(注1)が比較的多い取組指標^(注2)は、施設入込数等、空き店舗等、居住人口等、販売額等に関するものとなっている。

各目標指標分類の取組進捗・完了状況

取組進捗・完了状況	全体	E 公共交通機関利用	A 通行量	C 施設入込数等	F 空き店舗等	B 居住人口等	D 販売額等	G その他
A+B+C	38	4	12	6	2	6	3	5
<u>a+b+c</u>	12		2	2	1	4	2	1
計	50	4	14	8	3	10	5	6
取組順調率	76%	100%	86%	75%	67%	60%	60%	83%

$$\text{取組順調率} = (A+B+C) / (A+B+C+\underline{a}+\underline{b}+\underline{c})$$

(注1) 取組の進捗・完了状況及び目標達成状況等の分類(6ページ)のうち、「予定どおり進捗・完了」したものはA、B及びCが、「予定どおりでない」ものはa、b及びcが、それぞれ相当する。

(注2) 今回評価対象であった指標のうちA、B及びCが選択された比率(取組順調率)の全体平均が76%であったため、これと比較して数値が大きい場合には「予定どおり進捗・完了したものが比較的多い」としている。

(3) 目標指標ごとの目標達成状況

次に、14市50目標指標について目標達成状況を集計した結果は、次のとおりとなっている。

【目標達成状況】

目標達成となったもの^(注1)が比較的多い目標指標^(注2)は、施設入込数等、公共交通機関利用、空き店舗等に関するものとなっている。

逆に、目標未達となったもの^(注1)が比較的多い目標指標^(注2)は、販売額等、通行量、居住人口等に関するものとなっている。

各目標指標分類の目標達成状況

目標達成状況	全体	C 施設入込 数等	E 公共交通 機関利用	F 空き店舗 等	D 販売額等	A 通行量	B 居住人口 等	G その他
A + <u>a</u>	16	5	2	1	1	2	1	4
B + <u>b</u> + C + <u>c</u>	34	3	2	2	4	12	9	2
計	50	8	4	3	5	14	10	6
目標達成率	32%	63%	50%	33%	20%	14%	10%	67%

$$\text{目標達成率} = (A + \underline{a}) / (A + B + C + \underline{a} + \underline{b} + \underline{c})$$

(注1) 取組の進捗・完了状況及び目標達成状況等の分類(6ページ)のうち、「目標達成」したものはA及びaが、「目標未達」のものはB、b、C及びcが、それぞれ相当する。

(注2) 今回評価対象であった指標のうちA及びaが選択された比率(目標達成率)の全体平均が32%であったため、これと比較して数値が大きい場合には「目標達成となったものが比較的多い」としている。

(4) 目標指標ごとの当初の状況からの改善状況

14市50目標指標について、現況（実績数値）が当初の状況（基準値）から改善しているかどうかを集計した結果は、次のとおりとなっている。

[当初の状況からの改善現状]

現況（実績数値）が当初の状況（基準値）と比較して改善しているもの^(注1)が比較的多い目標指標^(注2)としては、施設入込数等、公共交通機関利用に関するものが挙げられる。

一方、改善されていないもの^(注1)が比較的多い目標指標^(注2)としては、通行量、居住人口等、空き店舗等、販売額等に関するものが挙げられる。

各目標指標分類の改善状況

改善状況	全体	C 施設入込 数等	E 公共交通 機関利用	A 通行量	B 居住人口 等	F 空き店舗 等	D 販売額等	G その他
A + <u>a</u> + B + <u>b</u>	29	7	3	7	5	1	1	5
C + <u>c</u>	21	1	1	7	5	2	4	1
計	50	8	4	14	10	3	5	6
基準値改善率	58%	88%	75%	50%	50%	33%	20%	83%

$$\text{基準値改善率} = \frac{A + \underline{a} + B + \underline{b}}{A + B + C + \underline{a} + \underline{b} + \underline{c}}$$

(注1) 取組の進捗・完了状況及び目標達成状況等の分類(6ページ)のうち、「改善された」ものはA、a、B及びbが、「改善されなかった」ものはC及びcが、それぞれ相当する。

(注2) 今回フォローアップ評価対象となった指標のうちA、a、B及びbが選択された比率(基準値改善率)が58%であったため、これと比較して数値が高いものを「改善しているものが比較的多い目標指標」としている。

＜2. 各目標指標分類の取組進捗・完了状況、目標達成状況、改善状況に関する分析について＞

以上の結果を踏まえ、目標指標ごとの取組・完了状況等については、次のとおり分析することが出来ると考えられる。

- ① **通行量**については、「取組進捗・完了状況」について「予定どおり進捗・完了した」と答えている市が全体に比べて比較的多いが、「目標達成状況」について「目標達成できた」市は全体と比べて比較的小さい。また、「改善状況」では「当初の状況（基準値）から改善した」市が全体に比べて比較的小さい。

以上より、「**通行量**」については、事業は概ね予定どおり進捗・完了したものの、**目標達成、改善状況ともに厳しい結果**といえる。

着実に事業が進捗した理由としては、例えば、通行量に関する事業はイベント事業等のソフト事業が多数含まれていることが多く、ソフト事業はハード事業に比べて景気の動向の影響を受けにくいいため、計画どおり実施されたためではないかと考えられる。

また、目標達成、改善状況が厳しい結果に終わった理由としては、「通行量」は、他の目標指標に関する取組の効果全般の影響を受けるものであるが、特に、「居住人口等」「販売額等」の実績につながる居住施設、商業施設等の整備状況に大きく影響を受けたことや、事業実施個所の周辺では活性化がなされたものの、施設間の人の回遊が当初想定ほどなされなかったことが考えられる。

一方で、目標達成あるいは改善された市の中には、高岡市のように、歴史や文化等の地域資源を活用したハード事業（高岡古城公園整備事業、高岡大仏保存修理事業）とソフト事業（瑞龍寺ライトアップ事業や文化遺産群を活用した各種イベント等）の一体的な促進や、府中市のように、拠点整備と併せた隣接地の多目的広場や周辺道路整備といった複合的な取組み、また、単発ではなく年間を通した様々なイベント開催等により、計画どおりの効果が現れたと考えられる。

- ② **居住人口等**については、「取組進捗・完了状況」について「予定どおり進捗・完了しなかった」と答えている市が全体に比べて比較的多く、「目標達成状況」も「目標未達」である市が全体に比べて特に多い。「改善状況」も「当初の状況（基準値）から改善した」市が全体に比べて比較的小さい。

以上より、「**居住人口等**」については、**取組進捗・完了状況、目標達成、改善状況ともに厳しい結果**といえる。

この理由としては、地価の下落等の要因により、民間マンションの投資が促進されている都市も見られる一方で、近年の景気低迷の影響による住宅供給減や、想定以上の人口の自然減によることが考えられる。

また一方で、目標達成した市の中には、金沢市のように、まちなか居住費用支援制度を市民ニーズ等に応じて柔軟に見直すことにより、居住人口増加に対して一定の成果を上げている市もある。

- ③ **施設入込客数等**については、「取組進捗・完了状況」について「予定どおり進捗・完了した」と答えている市は全体と比べてほとんど変わらないが、「目標達成状況」は「目標達成できた」市が全体に比べて特に多い。また、「改善状況」でも「当初の状況（基準値）から改善した」市が特に多い。

以上より、「**施設入込客数**」に関しては、**着実に取組が進捗・完了しており、成果が着実に発現している**といえる。

この理由としては、豊後高田市のように、新規の集客基盤施設（昭和ロマン蔵、昭和の町展示展）が順次整備されていることに併せて、効果的なイベント等のソフト事業が一体的に実施され、相乗効果を発揮できたためと考えられる。

- ④ **販売額等**については、「取組進捗・完了状況」について「予定どおり進捗・完了しなかった」と答えている市が全体に比べて比較的多く、「目標達成状況」も「目標未達」である市が全体に比べて比較的多い。「改善状況」も「当初の状況（基準値）から改善した」市が全体に比べて特に少ない。

以上より、「販売額等」については、取組進捗・完了状況、目標達成、改善状況ともに厳しい結果といえる。

この理由としては、特に小売商業は、計画作成当初（平成18年～平成19年）以降の景気低迷の影響が大きく、事業の進捗が遅れ、事業内容が縮小されていることや、予定どおり事業を実施している場合においてもその発現効果が当初の想定を下回ったことが考えられる。

- ⑤ **公共交通機関利用**については、「取組進捗・完了状況」について全ての市が「予定どおり進捗・完了した」と答えている。また、「目標達成状況」も「目標達成できた」市が全体に比べて比較的多いうえに、「改善状況」でも「当初の状況（基準値）から改善した」市が全体に比べて比較的多い。

以上より、「公共交通機関利用」に関しては、着実に取組が進捗・完了しており、成果が着実に発現しているといえる。

着実に取組が進捗した理由としては、例えば、富山市の路面電車環状線事業のように、公共交通機関に関する事業主体は市であることが多いため、景気の動向に左右されにくく、計画どおり実施されたためではないかと考えられる。

また、成果が着実に発現した理由としては、富山市のように、公共交通機関周辺の集客施設整備などの事業が着実に整備され、集客効果を発現していることや、金沢市や熊本市のように、公共交通の新ルート開発や低額・料金均一乗車券といった利用促進策の実施等によるものと考えられる。

- ⑥ **空き店舗等**については、「取組進捗・完了状況」について「予定どおり進捗・完了しなかった」と答えている市が全体に比べて比較的多いものの、「目標達成状況」は「目標達成できた」市が全体に比べてわずかに多い。一方で、「改善状況」では「当初の状況（基準値）から改善した」市が全体に比べて比較的小さい。

以上より、「空き店舗等」については、目標達成した市はあるものの、取組進捗・完了状況、改善状況ともに厳しいものと考えられる。

この理由としては、新規出店への支援など空き店舗解消に向けた取組が一定の成果を上げている一方で、出店しても顧客確保が見込めない等、小売商業全体の厳しい状況が反映されたものであると考えられる。

<各目標指標分類の取組の進捗・完了状況及び目標達成状況等>

	「取組進捗は概ね予定どおり」 が比較的多い	「取組進捗は遅延等」 が比較的多い
「目標達成」が 比較的多い	E：公共交通 機関利用	C：施設入込数等 (注1)
「目標は未達だが、 計画当初より改善」 が比較的多い	F： 空き 店舗等 (注2)	
「計画当初より悪 化」が比較的多い	A：通行量	B：居住人口等 D：販売額等

(注1) C：施設入込数等の取組進捗率は75%であり、全体平均が76%とほとんど変わらないため（7ページ参照）、「取組進捗は概ね予定どおり」が比較的多い」と「取組進捗は遅延等」が比較的多い」の中間に位置付けた。

(注2) F：空き店舗等については、目標達成率（35%）は全体平均（32%）を上回るものの、基準値改善率（33%）は全体平均（58%）を下回るため、上記のような位置付けとした。（8ページ及び9ページ参照）

(参考) 各目標指標分類の報告内容(平成23年度最終フォローアップ)

【市町村による評価】

- A: 計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えている。
- a: 計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えている。
- B: 計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えたが、目標値には達していない。
- b: 計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えたが、目標値には達していない。
- C: 計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値及び基準値にも達していない。
- c: 計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値及び基準値にも達していない。

(※) 単純な数値比較でないもの(例: 空き店舗率のよう目標指標がパーセントのものなど)は「-」としている。

都道府県名	市町村名	目標	目標指標	評価	1期基準値 (α)	1期目標値	1期最新値 (β)	増加・減少率(※) $\frac{(\beta - \alpha)}{\alpha}$
富山県	富山市	公共交通の利便性の向上	踏面電車内線一日平均乗車人数(人/日)	B	10,016	13,000	11,476	15%
		賑わい拠点の創出	中心商業地区の歩行者通行量(日曜日)(人/日)	B	24,932	32,000	27,407	10%
		まちなか居住の推進	中心市街地の居住人口(人)	C	24,099	26,500	23,507	-2%
青森県	青森市	多くの市民が賑わう中心市街地(街の楽しみづくり)	歩行者通行量(人/日)	C	59,090	76,000	43,774	-26%
		多くの観光客を集容する中心市街地(交流街づくり)	年間観光施設入込客数(人/年)	B	696,312	1,305,000	1,108,351	59%
		歩いて暮らしやすい中心市街地(街ぐらし)	中心市街地夜間人口	B	3,346	3,868	3,511	5%
石川県	金沢市	中心市街地の商業の活性化	空き地・空き店舗率	C	10.7%	8.8%	15.7%	-
		誰もが暮らしやすい中心市街地	小売年間商品販売額(百万円/年)	C	68,553	68,553	56,541	-18%
		にぎわいと交流が生まれる中心市街地	中心市街地の人口の年間社会動態(人)	A	▲ 462	0	38	-
広島県	府中市	過度に自動車に依存しない中心市街地	主要商業地の休日の歩行者・自転車通行量(人)	C	73,292	80,000	70,600	-4%
		賑わいの創出による市民や来街者が集い交流する魅力ある中心市街地の形成	JR金沢駅の年間定期外乗車人員(万人)	C	368	400	356	-3%
		安心して便利に歩いて暮らせる中心市街地の形成	金沢ふらっとバスの乗車人員(人)	A	708,478	750,000	776,852	10%
熊本県	熊本市 (熊本地区)	人々が活発に交流しにぎわうまち	歩行者・自転車通行量	A	4,284	5,600	5,818	36%
		城下町の魅力があふれるまち	商業積地域の商店の数	A	256	256	257	0%
		誰もが気軽に訪れることができるまち	商業積地域の商店の質(点)	C	3.1	3.1	3.6	16%
熊本県	八代市	中心市街地の賑わいを取り戻す	人口動態(社会動態)	B	▲ 49	0	▲ 42	-
		街なか居住の促進	中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量(人/日)	b	309,381	340,000	319,550	3%
		中心商店街の活性化	熊本城年間入園者数(人/年)	A	825,807	1,000,000	1,589,925	93%
			市電の年間利用者数(人/年)	A	9,160,000	9,280,000	10,194,381	11%
			歩行者・自転車通行量の増加	C	15,053	16,600	14,787	-2%
			中心市街地の居住人口の増加	C	7,687	8,000	7,384	-4%
			中心商店街の売上額の増加(万円)	C	623,390	680,000	593,655	-5%

(参考) 各目標指標分類の報告内容(平成23年度最終フォローアップ)

【市町村による評価】

- A: 計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えている。
 a: 計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えている。
 B: 計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えたが、目標値には達していない。
 b: 計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えたが、目標値には達していない。
 C: 計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値及び基準値にも達していない。
 c: 計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値及び基準値にも達していない。

(※) 単純な数値比較でないもの(例: 空き店舗率の
 ように目標指標がパーセントのものなど)は
 「-」としている。

都道府県名	市町村名	目標	目標指標	評価	1期基準値 (α)	1期目標値	1期最新値 (β)	増加・減少率(※) $\frac{(\beta - \alpha)}{\alpha}$
大分県	豊後高田市	いとおい懐かしいおまち 一進化— 高齢者が楽しいおまち 一創造—	豊後高田昭和の町の年間観光入り込み客数	a	259,647	400,000	401,036	54%
				b	26%	36%	35.8%	-
長野県	長野市	訪れたいくなるまち 住みたいくなるまち 歩きたいくなるまち 参加したくなるまち	善光寺仁王門前の歩行者・自転車通行量(人)	A	8,552	10,000	10,310	21%
			中心市街地(36町丁字)の居住人口(人)	b	9,660	10,900	9,817	2%
			中心市街地(15地点)の歩行者・自転車通行量(人)	c	263,903	320,000	226,105	-14%
			もんぜんぶんら座と生涯学習センターの年間利用者数(人)	A	300,726	368,000	426,233	42%
北海道	帯広市	街なか居住の促進による、居住人口の増を図り地域コミュニティ再生 大型空き店舗再生、商店街の魅力的空間づくりによる、賑わい創出、来街者・歩行者の増 芸術・文化活動の活動拠点をつなぐ機能整備による、各活動拠点施設利用者の増	街なか居住者数	c	2,892	3,650	2,795	-3%
			歩行者通行量	B	14,367	19,000	16,710	16%
			活動拠点施設の利用率	A	72.0%	76.4%	77.9%	-
			年間小売販売額(億円)	C	2,004	2,005	1,864	-7%
千葉県	千葉市	文化が薫り都心の魅力がふられるまち 多様な交流と出会いを育む賑わいのあるまち	文化施設・都市福祉施設等の年間利用者数(万人)	A	16	89	110.4	590%
			歩行者通行量(休日)	B	18,476	23,800	21,688	17%
静岡県	浜松市	魅力ある商業空間の形成 洗練された都心・生活空間の形成 創業都市・浜松にふさわしい業務機能の集積	小売販売額(億円)	c	1,392	1,700	917	-34%
			歩行者通行量	c	102,489	142,500	81,584	-20%
			居住人口	b	5,891	7,800	6,892	17%
			就業人口	A	38,918	41,318	44,288	14%
和歌山県	和歌山市	城まち賑わい拠点の創出 城まち居住の促進 城まち回遊性の向上	中心商業地(ぶらり丁周辺地域)7地点の歩行者・自転車通行量(平日・休日平均)	C	22,075	26,500	17,107	-23%
			中心市街地の居住人口	C	11,268	11,680	10,827	-4%
			城まちハッピーロードの歩行者・自転車通行量(休日)	C	9,762	22,500	9,249	-5%

(参考)各目標指標分類の報告内容(平成23年度最終フォローアップ)

【市町村による評価】

- A:計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えている。
 a:計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えている。
 B:計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えたが、目標値には達していない。
 b:計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えたが、目標値には達していない。
 C:計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値及び基準値にも達していない。
 c:計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値及び基準値にも達していない。

(※)単純な数値比較でないもの(例:空き店舗率の
よりに目標指標がパーセントのものなど)は
「-」としている。

都道府県名	市町村名	目標	目標指標	評価	1期基準値 (α)	1期目標値	1期最新値 (β)	増加・減少率(※) $\frac{(\beta - \alpha)}{\alpha}$
富山県	高岡市	歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大	主要観光施設における観光客入込み数(人)	B	965,161	1,220,000	1,184,889	23%
		まちなか居住の推進	中心市街地における居住人口(人)	c	17,597	17,800	16,048	-9%
		中心商店街の賑わい創出	中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値(人) 中心商店街(4商店街)の空き店舗数(件)	B A	11,326 46	13,500 37	12,913 20	14% -57%
兵庫県	宝塚市	文化・芸術ともなしの心あふれる「訪れてみたい」まち	中心市街地の主な集客施設の集客数(千人)	c	1,778	2,000	1,523	-14%
		商業・サービスが充実した「暮らしやすい」コンパクトなまち	小売業年間販売額(百万円)	a	41,123	43,000	43,340	5%
		市民自らが「いきいきと活動できる」まち	駅前商業施設の空き店舗率 NPOが実施する事業の数	c A	16.3% 30	9.5% 90	29.0% 98	- 227%